認定NPO法人Kacotam
活動報告書
2022

VISION

すべての子どもが学びの機会に出会い、自己実現に向けて挑戦できる社会

MISSION

環境に左右されない楽しい学びの場をすべての子ども･若者へ

2022年1月でKacotamは団体設立10周年を迎えました！

団体設立10周年の取り組み

10周年記念特設WEBページでも各取り組みを紹介しています。特設WEBページ内には、LINEスタンプや動画へのリンクをご用意していますので、ぜひご覧ください。

https://kacotam.com/10th/

Kacotamは2022年1月1日に10周年を迎えることができました。これまで一緒に活動してきたメンバーやKacotamサポーター、様々な面で応援していただいた皆さまのおかげです。ありがとうございます。

10年前、代表の髙橋が、教育・児童福祉について右も左も分からない状態から想いだけで駆け出して、仲間を集め、日々、目の前の子どもに対して何ができるのかを考えながら、カコタム（考えるの「か」、行動するの「こ」、楽しむの「たむ」）を実践し、子どもの学びの場をつくってきました。

活動する中で、子どもが成長し、それぞれの道を歩んでいく姿を見ることができました。初めてのスタサポで関わった当時中学3年生だった子が高校に入学し、高校卒業時には、Kacotamを利用する側からKacotamのボランティアメンバーとして参加するようになり、その過程で専門学校を卒業し、就職して社会人として働くようになりました。そのような子がまた一人また一人と増えていき、次の世代へとKacotamが大事にしていることや想いが引き継がれていく。そのような循環が生まれつつあります。そして、札幌市だけではなく苫小牧市や東京都へと、様々な地域に学びの場が広がっています。

10周年を迎えられた喜びを皆さまとともに分かち合い、お祝いしたいと思いさまざまな企画を実施いたしました。

Thank you for your cooperation.

記念祝賀会

2022年7月29日に寄付をいただいている方々や様々な形で協力いただいている方々と共に祝賀会を開催しました。

活動趣旨に賛同いただいた、ホテルモントレエーデルホフ札幌様が素敵な会場を無償で提供してくださいました。

記念ロゴ

帽子の星の数は、2021年末現在の活動市町村数を表現しています。「すべての子どもが学びの機会に出会い、自己実現に向けて挑戦できる社会」を目指して、次の10年にはさらにたくさんの星が輝くように、取り組みを進めます。

記念誌

団体の活動の変遷や長期利用者の声、長期活動メンバーの声など、Kacotamの10年間の取り組みと成果をぎゅっと詰め込んだ一冊になっています。お寄せいただいた10周年のお祝いの言葉もご紹介しています。

記念動画

これまでの活動の歩みや各事業の紹介、次の10年に向けた抱負、活動に込めた想いなどを、10分弱の動画にまとめました。

LINEスタンプ

Kacotamのマスコットキャラクター「カコタン」のLINEスタンプ10周年スペシャルを作成しました。Kacotamのメンバーからアイディアを募って普段使いできるもの、Kacotamらしいものを40個詰め込みました。

記念協賛

10周年記念協賛（寄付金）をいただきました。誠にありがとうございます。

The Power of Nature AminoUp

FUSION MARKETING COMPANY

ECOMOTT

Coach&Fo コーチャンフォーグループ

FRSコーポレーション株式会社 Field ResearcherS corporation

（敬称略、順不同）

受験対策学習会

受験カコタム2022

受験カコタムは2012年から受験対策勉強会として始まり、2014年からは名称を改めて実施してきました。当初はもっとKacotamにいる時間を長くしたい、という子どもの要望に応える趣旨がありましたが、より受験対策に特化したものとして進化を遂げてきました。

学年を中学3年生と高校3年生に限定、北海道学力コンクールへの参加、夏期・冬期講習の実施、オリジナルのWEB問題集の作成、実施頻度の増加（月1～2回から毎週）などを経てきています。

当年は、中3が10名と高3が2名が利用しました。週に1回、夏までは10時～12時、夏以降は9時～12時に実施し、受験を見据えた学習に熱心に取り組んでいました。

Amazon ほしいものリスト

高校生からの参考書や赤本が欲しいが手が出ないという相談や、メンバーからの「もっとこういう教材があれば」という意見があったため、当年は Amazon ほしいものリストを利用して寄贈を募りました。

赤本や過去問集は一人一人の子どもへ貸し出しができるほどの寄贈をいただきました。寄贈いただいた各教科の参考書・問題集は、基礎固めや演習量を増やすのに役立ち、学習時間を充実したものにできました。

年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
・LINE受験相談開始 ・2時間制で開始			・夏期講習 ・メンバー研修会	・3時間制へ切替 ・道コン実施		・道コン実施	・道コン実施 ・WEB問題集開始	・冬期講習（高3）	・冬期講習（中3）	・最終回	・LINE受験相談終了 ・利用者アンケート

コーディネーターの声

どの子もそれぞれ自分の目標に向かって真剣にがんばる姿が印象的でした。夏期講習、冬期講習なども行いましたが、みんな一生懸命取り組んでくれたと思います。

また、協力してくれたメンバーも、毎回担当した子の課題に寄り添えるように一生懸命対応してくれていたと思います。

1年無事乗り切れて、関わってくれた方々に感謝を伝えたいです。　ろっく（社会人）

LINE 受験相談

新型コロナウイルス感染症の流行により対面での活動が難しくなる可能性を想定し、非対面での受験対策が容易にできるようにするため、LINE（LINE WORKS）を利用して、受験に向けての相談や分からない問題の質問が対面での開催日以外にもできるようにしました。1人の子どもに対して、3～5名ほどのメンバーを割りあてたグループトークを作成し、子どもからの質問にメンバーが随時答えました。

担当したメンバーの声

寄せられた質問に対して誰が回答するのかという駆け引きが難しかったですが、LINE受験相談に来ていた質問を踏まえて対面の活動のときにやることを考えることができました。

おばちー（学生）

文面でのやりとりだと、子どもの様子が分からず、理解してくれているかの判断が難しかったですが、自分はできるだけ簡潔に返信するようにしていました。

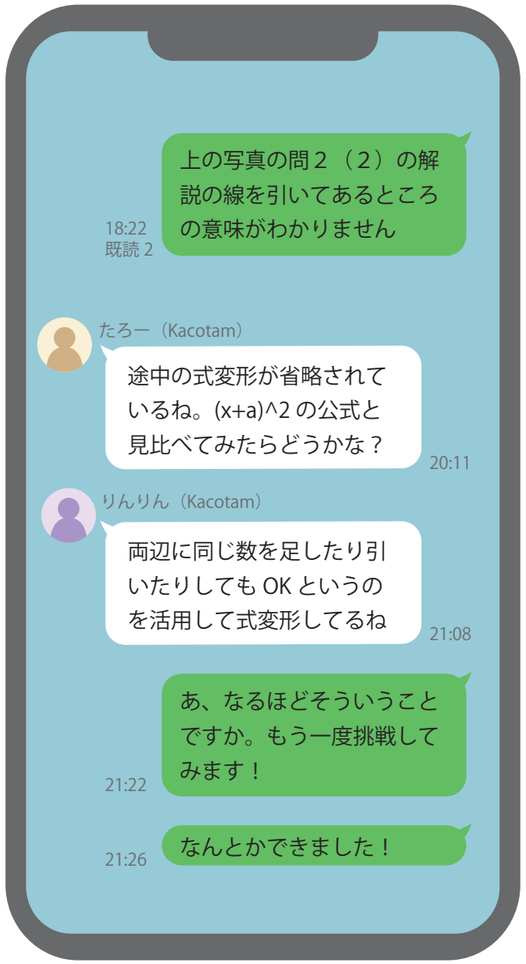
ゆうき（学生）

対面での活動にはなかなか参加できませんでしたが、中学生の頃からKacotamで一緒に学習をしたことがある子を担当したので、LINE受験相談でも顔を想像しながらやり取りすることができました。

しゅうさん（社会人）

質問の仕方がわからない様子の子もいて、本当に聞きたいことはなんなのか推理しながら回答しました。具体的な問題ではなく単元について漠然と教えて下さいという質問は答えにくかったですが参考になりそうな動画を紹介しました。

かおり（社会人）



※架空のやりとりによるイメージです。

2022年の活動ダイジェスト

数字で振り返る2022年

各活動で関わった子どもの数（各活動で2022年1月～12月に1度でも関わった子どもを1名として計数。）

スタサポ	121名	学ボラ	39名
ゆるきち	26名	ポル	37名

新型コロナウイルスの感染状況が少しずつ落ち着てきたこともあり、全体的に利用する子どもの人数が増えました。これまでは、利用者によるロコミによってつながることが多くありましたが、当年は関係機関からの紹介によりつながったケースが例年以上に多くありました。

PICK UP

ねっこぼっこのいえ拠点 月1回開催から月2回開催へ

これまで協力団体のNPO法人ねっこぼっこのいえと協議を重ねながら、月1回実施したり、月1回＋隔月1回実施したりして進めてきました。お互いに実施体制を整え、当年から毎月2回実施することが可能となりました。月2回に増えたことで、安定的に利用されるようになりました。

外部機関連携事例や里親家庭からの依頼増加

当年は、スクールソーシャルワーカーや家庭児童相談室、子どもコーディネーターなどの関係機関と連携して子どもをサポートする事例が増えました。また、里親会の研修会で講演をしてから、里親家庭からの学習支援の依頼も増え、スタサポや学ボラが利用されるようになりました。

ゆるきち サポーターコミュニティ開設

ゆるきち運営資金の基盤を強化するため、CAMPFIRE コミュニティを利用して、ゆるきちサポーターコミュニティを開設しました。単純なマンスリー寄付のお願いではなく、ゆるきちをちょっと離れた親戚の家ぐらいの距離感で見守ってもらえる人と、ゆるきち利用者やメンバーとのつながりを持てるようにすることも狙いました。

子どもの「やりたい」をカタチにするプロジェクト

当年は、15個の子どもの「やりたい」という声をカタチにすることができました。スタサポで関わる子の他、学ボラやオンライン学習支援「あうるねっと」で関わる子の「やりたい」もカタチにすることができました。

プロからメイクを学びたい

スタサポに参加する小学生からの「プロからメイクを学びたい！」という声を受け、札幌ビューティアート専門学校にご協力いただきメイク・ヘアメイクを教えていただきました。

専門学校の先生や学生とお話をしたり、実際にメイク・ヘアメイクをしていただいたりする中で、さらに美容への興味が高まったようでした。

帰り際、来たときとは違う少し大人になった自分を実感し、周りの人を見てキラキラの笑顔を見せてくれたのが印象的でした。

トドにエサをあげたい

学ボラで関わる小学生からの「トドにエサをあげたい」という声に対し、小樽水族館に協力をいただき実現することができました。

トドに餌やりをしたり、トドに関する質問を飼育員の方から答えていただいたりしました。

学ボラメンバーと非日常の環境で過ごしたことで、素直に感情に出せないこともありつつも、いつも以上に楽しく、わくわくしている様子が見られました。

バッティングセンターに行きたい

オンラインの学習支援「あうるねっと」で関わる子どもから「バッティングセンターに行ってみたい！」という話があり、メンバーと一緒にバッティングセンターへ行きました。あうるねっとでは、初めてのカタチ化でした。

きっかけは学習の合間の雑談で出た、野球のゲームをしているというお話でした。いろいろな話をしていくうちに「実際に打ってみたい」「速い球を体験してみたい」と希望が具体的になっていき、実施に至りました。

お仕事カコタム

アナウンサー編

アナウンサーのお仕事に興味があるという中学生の子と、その子が一番憧れているUHBの中村剛大アナウンサーがオンラインで対談しました。

子どもが用意した質問に、中村アナは丁寧に答えてくれました。最後には、「10年後僕はまだアナウンサーやっていると思うので、一緒に働きましょう」と、エールが送られました。

スポーツトレーナー編

レバンガ北海道 U15 トレーナーの中田さんに協力いただき、スポーツトレーナーになりたいという中学生の子が、U15練習中の中田さんに密着させていただきました。また、練習の合間には、用意していた質問にも答えていただきました。

漠然としていたスポーツトレーナーのイメージがはっきりとしてきたようでした。

介護福祉士編

社会福祉法人明日佳にご協力いただき、介護福祉士やその周りの職種について、仕事への想い、考え方の変化など、これまでの経験を踏まえながらお話をいただきました。また、施設や介助に使用する機器なども見学させていただきました。

訪問した子は、「早く介護福祉士の資格を取りたい」と意気込んでいました。

利用者の声

Kacotamを利用している子どもにKacotamを利用している理由や利用していてよかったことなどを聞きました。

心のよりどころ

中学生から始めて、高校受験のときは特に支えてもらって、心のよりどころでした。受験に対してモチベーションが下がったときもあったけど、おかげで最後までやり切れたと思います。メンバーの環境の変化で担当が変わったのですが、前の人は一週間に一度「相談の時間」というルーティーンがあった感じ。今の人は、大学受験を見据えて勉強量が増えた感じです。今でも続けているのは、僕のゴールは高校ではなく大学まで行きたいって気持ちがあったのと、お世話になったメンバーに良い報告をしたいという気持ちがあるから。高校に入ってからは、自分でできる学校の課題は学ボラの時間にはやらず、自分の勉強をすると決めています。

学ボラを利用している高校生（利用歴：5年）

一人ひとりのよさも大人数のよさもある

中3の4月に学力がガクンと落ちちゃっていたのが、夏休み前にKacotamに来るようになって回復して学力テストもちょっとずつ上がりました。苦手なところをしぼって勉強できたのがすごくよかったと思います。

スタサポ拠点では最初、たくさん子どもとメンバーがいて馴染めるかな、と心配でした。先生が一人ひとりにつくというのも今まで体験したことがありませんでした。でも、あるメンバーと難しい問題を一緒にやったとき、他の人を呼んでわからないところは得意な人に聞くということがあって、大人数のいいところだなと思いました。その次の週、前回のメンバーが名前を覚えて話しかけてくれたのが嬉しかったです。受験カコタムではフレンドリーに接してくれる子がいて休み時間に共通の話題で盛り上がれました。

スタサポと受験カコタムを利用している中学生（利用歴：1年）

学習機会も見識も増やせる

中3の秋からずっと通い続けてきました。理由は二つあって、一つはいろいろな大人と関わることがあまりないから。もう一つは、予備校や塾に行く金銭的余裕がなくて、学校以外に勉強できるところがなかったからです。学習機会を増やしたかったので、今年度はスタサポ拠点も受験カコタムも利用していました。できることならもっと学習時間が長いとありがたかったですが、わからない問題を理解できるまで丁寧に教えてくれるところが魅力でした。

普段接する機会がない人と出会って、それぞれの大学受験の話が聞けたり、いろいろな考え方に触れたりして見識を増やせました。お世話になりました。

スタサポと受験カコタムを利用している高校生（利用歴：4年）

支援の輪

当年も多くの方からKacotamを応援していただき、子どもに学びの機会を提供することができました。個人145名、企業・団体36団体から総額9,596,004円の寄付金をいただき、直接のご寄付以外にも教材や消耗品購入、会場の提供等の数々のご支援をいただきました。

寄付金によるご支援をいただいた企業・団体等 ※順不同・敬称略

社会医療法人平成醫塾 苫小牧東病院
札幌西ライオンズクラブ
株式会社ロイヤルスイーツ
一般社団法人MDRT日本会
アクセンチュア株式会社
KDDI株式会社 北海道総支社
株式会社SORRY KOUBOU
札幌ライラックライオンズクラブ
札幌北ロータリークラブ
国際ソロプチミスト札幌
株式会社APクリエイション
税理士法人すずらん総合マネジメント
旭イノベックス株式会社
久光製薬ホットハートクラブ
株式会社ア・ド建築工房
札幌西ロータリークラブ
北海道生活協同組合連合会
NECソリューションイノベータ株式会社
株式会社ソーシャルリサーチ
株式会社オガワヤ
中原圭祐公認会計士事務所

活動への運営協力をいただいた企業・団体等 ※順不同・敬称略

しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道
藤女子大学（隈元ゼミ）
NPO法人陽だまりの家
NPO法人麻生キッチンりあん
琴似連合町内会
社会福祉法人扶桑苑
あすかの森認定こども園
一般財団法人日本ライオンズ
ハピぼん事務局
あさぶ商店街
COCOTOMA
公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ
NPO法人CAN

Thank you for your cooporation

収支報告 2022年1月1日から2022年12月31日まで

科目		金額（単位：円）
経常収益		14,438,371
	受取寄付金	9,596,004
	受取助成金等	234,000
	事業収益	4,475,716
	その他収益	132,651
経常費用		11,455,560
事業費		8,522,438
	人件費（給与手当／法定福利費）	5,996,872
	会議費	89,858
	旅費交通費	1,298,663
	消耗品費	84,525
	賃借料	300,170
	教材費	38,940
	食材費	4,052
	通信費	186,997
	雑費	28,105
	広告宣伝費	171,468
	水道光熱費	225,828
	支払保険料	96,960
管理費		2,933,122
	人件費（給与手当／法定福利費）	1,153,092
	交際費	500,650
	通信費	289,101
	会費負担金	45,600
	福利厚生費	19,382
	租税公課	36,100
	新聞図書費	150
	水道光熱費	65,595
	賃借料	614,316
	支払保険料	41,060
	支払手数料	6,638
	雑費	161,438
経常外収益		0
経常外費用		0
当期正味財産増減額		2,982,811
前期正味財産額		30,642,319
次期繰越正味財産額		33,625,130

内訳は、以下の通りです。
個人　5,900,605円
法人・団体　3,695,399円

内訳は以下の通りです。
学び支援事業　3,554,836円
コンサルティング事業　708,000円
アドボカシー活動事業　212,880円

ボランティア交通費、職員交通費などです。

スタサポの会場代です。

内訳は以下の通りです。
常勤職員　2名
（内、理事長分は、事業費に2/3、管理費に1/3を計上）
非常勤職員7名
拠点数や活動数の増加を受け、2023年度は、常勤職員を2名増員（計4名）する予定です。

10周年記念事業の食事代等です。会費として364,000円（56名）を収入として得ており、トークライブ登壇OB等の招待分を団体負担しています。

事務所の家賃分です。

収入に大きな減少があっても、少なくとも1年は活動を継続することができるだけの資金として積み立ててきました。

※当年は、全て特定非営利活動に係る事業となり、その他の事業はありませんでした。

※前年まで分を含め、Kacotam公式WEBページにて、活動計算書及び貸借対照表を公開しています。

NEXT ACTION 2023

2023年は、組織体制として課題となった部分の再構築を図り、学習に取り組める環境づくりの活動拠点・施設のより一層の拡大を目指して進めていきます。2023年は次の10年に向けて大きな一歩を踏み出す年としていきます。

ACTION 1
組織体制の強化

常勤職員を増員し各活動現場や事務局の強化を図ります。ボランティアマネジメントや広報、事務処理などの組織運営をこれまで以上に丁寧にスピード感をもって進められるようにしていきます。

ACTION 2
スタサポ・学ボラの拡大

既存拠点のメンバー確保・安定化施策を進めながら、スタサポ拠点を札幌市白石区や手稲区に開設します。学ボラでは札幌市外の児童養護施設で活動できるように施設にアプローチしていきます。

ACTION 3
パートナー団体と連携する仕組みづくり

全道179市町村に少しでも早く子どもの学びの場を届けるために、Kacotamのビジョンや活動方針に共感し、子どもの学びの場づくりをする団体と連携して進めていける仕組みを作ります。

ACTION 4
他機関連携によるアウトリーチの展開

スクールソーシャルワーカーや児童家庭支援センター、学校などの関係機関と連携して、家庭訪問や自宅付近における小規模拠点の開設など、子どもの状況や求めていることに応じた一人ひとりに合った学びの場をつくります。

Message

Kacotamの活動を様々な面で支えていただき、ありがとうございました。Kacotam創立10周年記念祝賀会では、多くの方に集まっていただき、多くの方に支えられて活動を継続してできていることを改めて感じました。

当年は、Kacotamを利用する子どもが増える年となりました。新型コロナウイルスが流行り始めた頃から既存の利用者が利用を控えたり、新規で利用する子どもが少なかったりしていましたが、既存利用者からのロコミや他機関からの紹介などが増えたことで、新たな子どもとつながり始めています。一方で、既存の活動ではサポートしきれない子どもがまだまだ多くいるのを感じています。

2023年も皆さまとともに「すべての子どもが学びの機会に出会い、自己実現に向けて挑戦できる社会」を目指し、活動に努めて参ります。

認定NPO法人 Kacotam　理事長 髙橋 勇造

発　行　　認定ＮＰＯ法人Ｋａｃｏｔａｍ
発行日　　2023年4月30日